

- 1 課題名 くろしおふれあい講座
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成18年度～平成20年度
- 4 担当 企画情報部（小久保友義・竹内照文・御所豊穂・田所恵子・田中千秋）、資源海洋部（内海遼一・土居内龍）

5 目的

一般市民を対象に、和歌山の海、さかなおよび漁業について話を聞くだけでなく、見て、触れて、味わう「くろしおふれあい講座」を開設し、漁業への理解と認識を深めるとともに水産物の消費拡大を図る。

6 成果の要約

(1) コースの設定

ア 体験コース（一般公募）

水産試験場の漁業調査船「きのくに」への乗船（海の調査体験）、定置網などの漁獲物の分類（さかなの分類体験）及び魚を材料にした料理（海の幸料理体験）のほか、本年度は魚の簡単な加工を行う、海の幸加工体験を追加設定した。

イ 博学コース（一般公募）

水産試験場の元研究員や県世界遺産センター職員を講師として海洋、生物および地域のことなどを専門的に勉強する。

ウ 臨時開催

小中高等学校の総合的学習、中高等学校の修学旅行での現地研修、その他一般団体等からの申し込みにより、前記コースを随時開催。

(2) 成果の概要

ア 体験コース（一般公募）

「海の幸料理体験」は7月30日、8月24日に実施し、東牟婁郡のおさかなママさんを講師に、地元産の魚・海藻を使用して様々な料理と試食を行った。参加者は一般の家族を主に、その友達など27名であった。

「海の幸加工体験」は8月1、20日に実施し、寒天や魚の干物作りを行った。参加者は一般の家族を主に、その友達など16名であった。

「海の調査体験」は8月8、9、10日に実施し、漁業調査船に乗船した後、プランクトンネットを用いてプランクトン等の採集などを行った。その後、採取したプランクトン等を顕微鏡で検鏡し、スケッチを行った。参加者は一般の家族を主に、その友達など37名であった。

「さかなの分類体験」は7月27日、8月7、28日に実施し、串本町檜野地区の定置網で漁獲した魚類を図鑑等で種類を検索した。参加者は一般の家族を

主に、高等学校の理科の実験担当の先生など54名であった。

イ 博学コース

8月2、27日に実施し、「海の話」「水産増殖について」「貝のひみつ」「栽培漁業について」「さかなの生態」「世界遺産 熊野の景観をひもとく」について講演し、78名の参加があった。

ウ 臨時開催

「くろしおふれあい講座」の臨時開催は、体験コース及び博学コースを中心に随時行った。参加者は串本や田辺周辺の小学生、岐阜県の小学生、京都市の中学生、高校生、一般、県政バス、クラブツーリズム（県観光地力養成事業）による一般公募（東京・名古屋）など1,287名。

なお、今年度「くろしおふれあい講座」の参加者の県内外の内訳は、県内が1,168名、県外が331名であった。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

該当なし

(2) 成果の発表

「くろしおふれあい講座」は紀伊民報（8月5日、24日）、南紀州新聞（6月24日、8月12日、11月15日）に紹介された。また、きのくに21（8月26日）で放映され、和歌山放送ラジオ（8月1日）でも紹介された。